



株式会社田中化学研究所

2015年3月期 中間決算説明会
2014年12月1日

目次

1. 中間決算ハイライト
2. 2015年3月期 中間期のトピックス
3. 製品別販売数量推移
4. 営業外収支および特別損益
5. キャッシュフロー計算書
6. 比較貸借対照表
7. 中期経営基本方針及び戦略テーマ
8. 2015年3月期予想
9. 2015年3月期 通期見通し
10. 製品別販売数量推移予想
11. 主原料国際価格推移

中間決算ハイライト

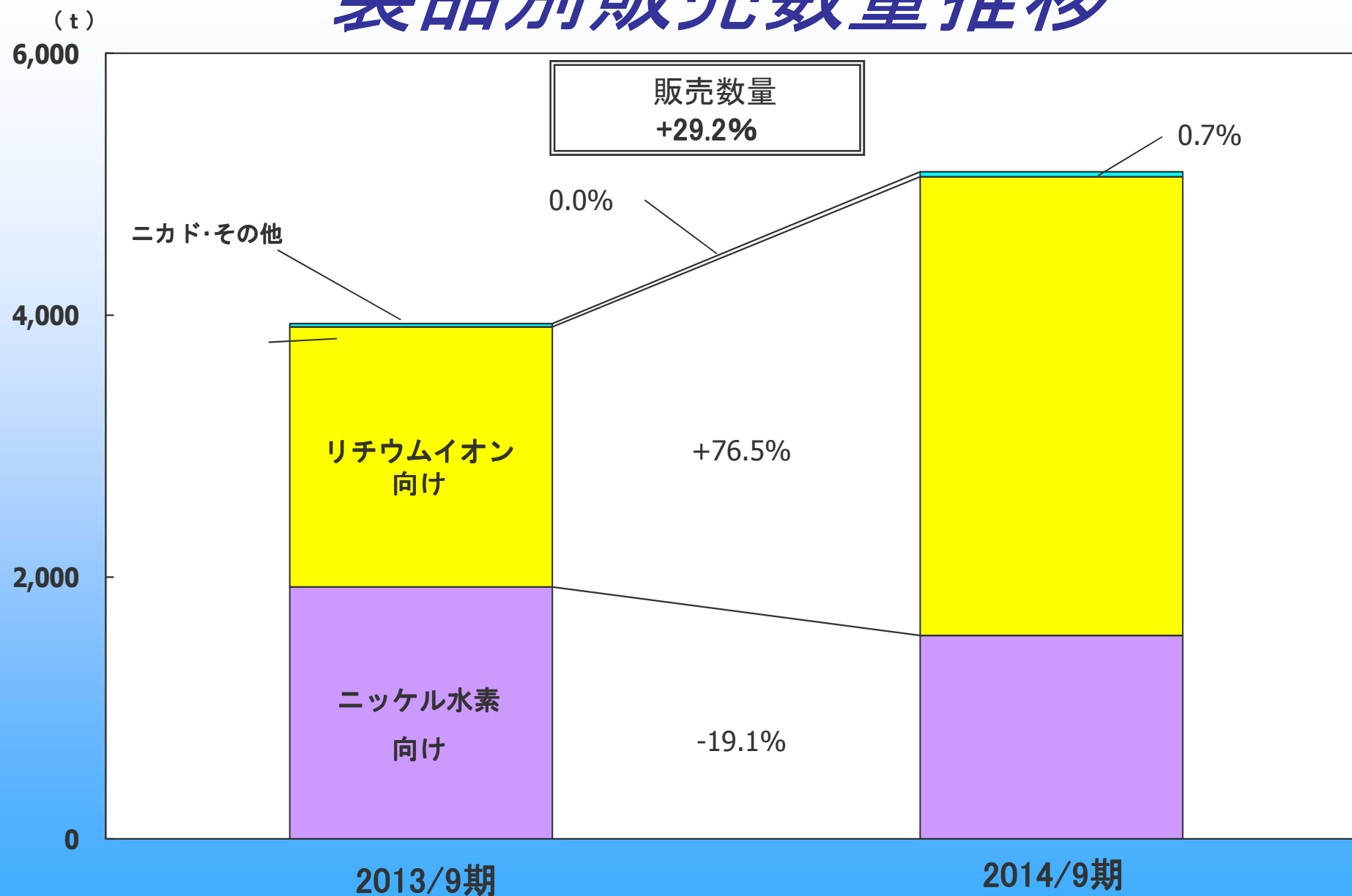
(百万円)

	2013/9期	増	減	2014/9期
売上高	4,433	+2,368	(+53.4%)	6,802
営業損失	-310	+111		-198
経常損失	-387	+60		-326
中間純損失	-374	+40		-333
EPS(円)	-27.10	+3.13		-23.97
設備投資	90	+85	(+94.4%)	175
減価償却費	592	+99	(+16.7%)	691
期末従業員数	189名	-11		178名

2015年3月期 中間期のトピックス

1. 売上高は前年同期比53.4%増加の6,802百万円。販売数量は前年同期比29.2%の増加。
2. ニッケル水素電池向けでは、民生用途でリチウムイオン電池へのシフトや乾電池型二次電池の生産調整の影響により、販売数量が大きく減少。環境対応車用途も生産ラインメンテナンスの影響で数量減少。
3. リチウムイオン電池向けでは、民生用途でノートPCの買い替え需要一段落や携帯電話伸長率低下に伴う在庫調整により、第2四半期後半に失速。環境対応車用途においてもハイブリッド車の販売不振に伴う顧客での生産調整により、販売数量増加がペースダウン。
4. 収益面では上記在庫調整や販売不振の影響を受けて販売数量が当初計画を大きく下回ったことに加えて新興国を中心とした材料メーカーとの競合継続やプロダクトミックスの変化、償却負担増等により厳しい状況が続く。
5. 主原料相場における13百万円の相場差損、営業外費用73百万円も加わり、中間期では経常損失326百万円を計上。

製品別販売数量推移



営業外収支および特別損益

(百万円)

	2013/9期	増 減	2014/9期
営業外収支	-76	-50	-127
金融収支	-58	+5	-52
その他	-18	-56	-75
経常利益	-387	+60	-326
特別損益	15	-19	-3
税引前中間純利益	-371	-41	-329
法人税等	2	+1	3
中間純利益	-374	+40	-333

キャッシュフロー計算書

(百万円)

摘 要	2014/9期
I.営業活動によるキャッシュフロー	
税引前当期純損失	-329
減価償却費	+691
(税引前当期純損失+減価償却費)	(+361)
運転資金増減	+66
その他	+153
計 (A)	+580
II.投資活動によるキャッシュフロー	
有形固定資産の取得	-219
補助金収入	+5
その他	+14
計 (B)	-199
フリーキャッシュフロー(A)+(B)	+381
III.財務活動によるキャッシュフロー	
長期借入金の返済による支出	-267
その他	-1
計	-268
現預金等換算差額	+14
現預金等増減額	+127
期末現預金残高	3,571

比較貸借対照表

(百万円)

	14/3期	14/9期	増 減		14/3期	14/9期	増 減
流動資産	(8,522)	(7,980)	(-541)	流動負債	(4,527)	(3,974)	(-553)
現預金	3,444	3,571	+127	仕入債務	3,406	3,019	-386
売上債権	2,647	2,219	-428	借入金	534	483	-51
棚卸資産	2,138	2,113	-24	その他	586	471	-115
その他	291	75	-215	固定負債	(8,202)	(7,972)	(-230)
固定資産	(8,012)	(7,513)	(-498)	負債 計	12,730	11,946	-783
有形固定資産	7,747	7,173	-573	純資産			
無形固定資産	17	17	-0	資本金	2,300	2,300	—
投資等	247	322	+75	資本剰余金	2,169	1,454	-715
				利益剰余金	-715	-313	+401
				自己株式	-2	-2	—
				評価・換算差額等	50	108	+57
				(自己資本比率)	(23.0%)	(22.9%)	—
				純資産 計	3,803	3,547	-256
合 計	16,534	15,494	-1,039	合 計	16,534	15,494	-1,039

中期経営基本方針及び戦略テーマ

➤ 基本方針

飛躍的な変化を遂げ、環境社会に貢献する。

➤ 戦略テーマ

1. 環境対応車用リチウムイオン電池向け正極材料の開発及び事業構築
2. 民生用リチウムイオン電池向け正極材料の開発及び販売戦略
3. ニッケル水素電池向け正極材料の販売戦略
4. コア技術を活用した新規材料開発
5. コスト力の強化
6. 強靱な組織体制の構築

2015年3月期予想

(百万円)

	2014/3期実績	前年比	2015/3期予想
売上高	10,660	+3,340 (+31.3%)	14,000
営業損失	-476	+96	-380
経常損失	-627	+57	-570
当期純損失	-715	+125	-590
設備投資	310	+360 (+116.1%)	670
減価償却費	1,308	+192 (+14.7%)	1,500
期末従業員数	180名	-2名	178名

(10月30日公表ベース)

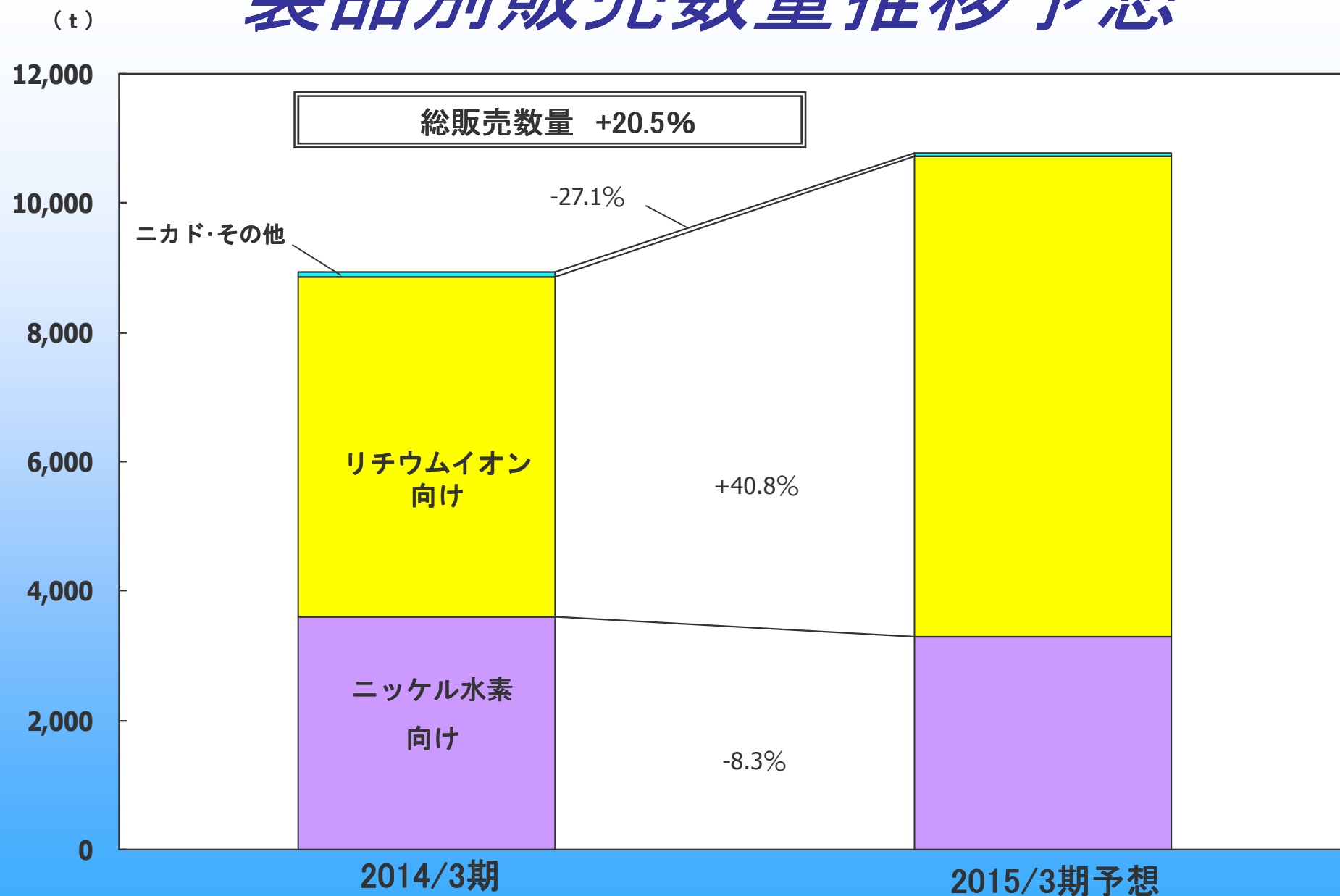
※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

2015年3月期 通期の見通し

1. 販売数量は全体で前年同期比20.5%の増加。売上高は前年同期比31.3%増加の14,000百万円を計画。ただし、当初計画からは販売数量で20.7%、売上高で22.2%の減少。
2. 第2四半期後半以降発生した環境対応車用途におけるハイブリッド車の販売不振や民生用途におけるノートPCの買い替え需要低迷の影響は第3四半期まで継続する見込み。
3. 業績回復のキーとなる新製品の市場投入により、第4四半期には既存顧客に対する新規需要獲得を見込む。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

製品別販売数量推移予想



主原料国際価格推移

